
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより 第191号（通巻第258号）

2021年1月22日 発行
山梨大学 教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラム等に関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

■第37回教育フォーラムのご案内（2/15）

2月15日（月）に、「コロナ禍における子ども支援 ― 教育相談として何ができるのか」をテーマに、Zoomミーティングにより教育フォーラムを開催します。多数のご参加をお願いします。

■コーディネーター

川本 静香（山梨大学教育学部附属教育実践総合センター）

■パネリスト

榛原 砂穂理（山梨県総合教育センター相談支援部）

荻原 ひろみ（山梨大学教育学部附属幼稚園）

お申込みはこちらから：<https://reas3.ouj.ac.jp/reas/q/68567>

<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2021/01/e-forum-37.pdf>

■第22回教職大学院教育実践フォーラムのご案内（2/13）

山梨大学教職大学院は、教職大学院生による研究発表を主なプログラムとする第22回教育実践フォーラムを開催します。学部の教職科目や教科教育の科目の受講学生にも、本フォーラムについてアナウンスしていただければ、と思います。また、広く教育実践に関心をおもちの方々のご参加を心よりお待ちしております。

【日 時】令和3年2月13日(土) 9:15～16:00

【対 象 者】どなたでも参加できます

【参加方法】Zoom

【申込方法】

■Web申込にて受付

お申込みはこちらから <https://forms.gle/zEhkeUj963imJAUv6>

※申し込みをいただきました方には後日Zoomの接続方法等をメールにてご連絡させていただきます。

申込締切：令和3年1月31日(日)

【問い合わせ先】

山梨大学教育学域支援課教務G(教職大学院担当) 奥原・根津 電話：055-220-8107

■ 秋田大学教育文化学部視察（オンライン）報告

山梨大学教師塾プロジェクトの一環として、秋田大学教育文化学部における教員養成について調査を行いました。今年度は感染症対策としてオンラインによる聞き取りを実施しました。秋田大学の先生方に深謝申し上げ、以下にその概要を紹介させていただきます。

1. 視察先：秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター（Zoomによるオンラインにて）
2. 日時：令和2年12月24日（木） 13：30～15：00
3. 視察者：教授 山本英寿、准教授 中込繁樹
4. 対応者：鎌田 信（センター長・教職大学院・教授）
田仲誠祐（副センター長、教育実践研究部門長・教職大学院・教授）
小池孝範（こども発達コース・准教授）
5. 聞き取り内容
 - (1) 模擬授業フェスティバル
 - ・教育文化学部附属教職高度化センターが主管となり、模擬授業フェスティバル実行委員会（教職大学院生とセンター長の数名のメンバーで構成）が主催する事業。
 - ・参加資格は教員を志望する秋田県内の大学生とし、グループまたは個人で参加することが条件となっている。
 - ・模擬授業フェスティバルにおいて、中心課題の解決策を模擬授業形式で発表する。
 - ・時間は、発表・説明が10分、質疑応答5分（準備・片付けを含む）の計15分間。授業の中でポイントとなる部分をピックアップして発表する。
 - ・模擬授業では、グループ参加の場合は、教師役と児童生徒役を設定して行う。個人の場合は、児童生徒役を会場の参加者が務める。
 - ・審査（課題解決能力、人間関係力、知識・技能等）を行い、最優秀賞等を決定する。
 - ・審査は公表されている秋田県の教員採用試験の評価基準を基にしながら行っている。優れた解決策を提案・発表したグループ・個人を表彰するとともに、夏のオープンキャンパスにおいて、高校生向けに模擬授業を発表し、教員を目指す学びの魅力を伝える広報活動を委嘱する。
 - (2) 教員就職状況
 - ・教員就職率はこの数年高い水準で推移している。しかし、以前はそれほど高くはなく、その対策として「スタージュ」と「教職自主ゼミ」という2つの講座を作った。単位科目ではないが、教員採用試験への意識づけや面接（含模擬授業）に対するきめ細かな指導があり、試験に直接結びつく内容となっている。
 - ・この他、年2回、スプリングキャンプ（4年生がメイン）とオータムキャンプ（3年生がメイン）という1泊2日の合宿を実施している。
 - ・秋田県の小中学校教員の年齢構成は50歳代が大半を占めている。ここ数年にかけて大量の退職者が始めていることが就職率を上げている要因ともなっている。
 - (3) 教員養成の特色
 - ・学部の改組が図1のように平成26年度に行われ、学校教育課程に教員養成が注力されるようになった。
 - ・カリキュラムの特徴として、2年次から4年次まで実習系の科目が途切れなく配置されていることが挙げられる。また、各年次に「教育実地研究」という現場での実践力を養う科目がある。これは教育実習以外の実習の機会と位置付けられている。
 - ・他に、「教職総合基礎」と「教職発展演習」も特色ある科目として挙げられる。採用試験にも直結し、学校現場でも役立つようなかなり具体的な内容となっている。
 - ・教育実習に関しては、事前指導を5回実施して、その意義や視点、子供理解、教師の支援の在り方、指導案の書き方等について学んだり、附属学校に行って現場に慣れる体験をしたりしている。事後指導は振り返りのために3時間を当てている。
 - ・模擬授業室も実際の教室を模した環境が整っていて、学部だけでなく教職大学院でもよく活用

されている。教職大学院では、指導主事やスーパーティーチャー、コアティーチャーと呼ばれる授業力の高い教員を招聘して、質の高い授業を見せる機会を提供している。また、教育委員会と連携して県の総合教育センターに来ている研修員の研修の一環として、授業のつくり方や授業展開の工夫などについて学び合う場にもなるようにしている。

(4) 教職高度化センターの組織について

- ・昨年度、教員の養成、採用、研修が一体化するために、県教委や外部と結びついた教員養成のあり方を考えていく必要性の中から、教職における高度化を図ることを目指して改組を行い、名称もこれまでの教育実践研究支援センターから変更した。関係諸機関とのつながりを表したものが図2である。
- ・改組後の組織は「教職研究部門」「教育実践研究部門」「教員育成連携支援部門」「臨床心理学部門」の4部門で構成されている。

秋田大学教育文化学部の改組	
平成25年度以前: 290名	平成26年度: 210名
学校教育課程 (100名)	学校教育課程 (110名)
教科教育実践選修 (65名)	教育実践コース (45名)
障害児教育選修 (15名)	英語教育コース (10名)
発達科学選修 (20名)	理数教育コース (20名)
地域科学課程 (65名)	特別支援教育コース (15名)
政策科学選修	こども発達コース (20名)
生活者科学選修	
文化環境選修	
国際言語文化課程 (65名)	地域文化学科 (100名)
日本アジア文化選修	地域社会コース
欧米文化選修	人間文化コース
国際コミュニケーション選修	
人間環境課程 (60名)	
自然環境選修	
環境応用選修	

図1 秋田大学教育文化学部の改組

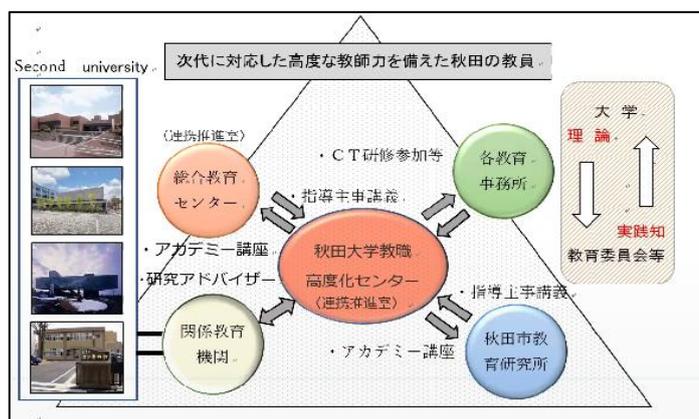


図2 教職高度化センターと外部関係機関等との連携イメージ

■ 鳴門教育大学へのメール調査報告

山梨大学教育学部附属教育実践総合センターにおける教員志望学生の教師力・授業力養成のための取組「山梨大学教師塾プロジェクト2020」(山梨大学戦略・公募プロジェクト)の一環として、教員就職率全国一位(2019年3月卒業生調査)となった鳴門教育大学を視察し、来年度以降のプロジェクト内容の改善を図るべく同学における教員養成にかかる取組等について情報収集をすることを計画していました。しかし、第3波ともいわれている最近の新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、今回は派遣を取止め、質問事項を「ご教示いただきたい事柄」としてまとめメールでご教示いただくよう依頼したところ、丁寧なご回答を頂きました。以下にその概要を紹介いたします。

○ 入試の工夫

- ・従来から入試での面接を重視している。令和3年度入学選抜からは、すべての選抜において面接を課しており、教員としての資質・能力や、教育に関する関心・意欲をみている。
- ・広報では、教員就職率の実績、取得できる免許状の種類(異校種、複数教科など)、就職支援体制など、教員就職の面で有利となる情報を発信している。
- ・教員養成系の単科大学であり、教員養成に特化していることを進学相談会やオープンキャンパスでも広報している。

○ 教育課程の特徴

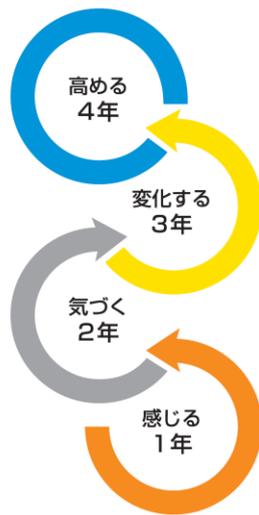
- ・従来の教育実習に新しい工夫改善を加えた「実地教育」を実施している。

実地教育(教育実習)

従来の教育実習に新しい工夫改善を加えた「実地教育」

教員となるためには、教育現場を実地に学修する、いわゆる教育実習が極めて重要です。

本学では、従来の教育実習に新しい工夫改善を加え、「実地教育」として、できるだけ早い時期から教育に対する目を開かせ、段階を追って教員としての資質を高めるために、1年次から4年次にわたり、「実地教育計画表」に示すとおり実施することとしています。



実地教育計画表

	授 業 科 目	実施学年	受 講 対 象	主 な 実 施 場 所
高める	教員体験実習	4	オ ブ シ ョ ン	協 力 校
	特別支援教育実習	4	特別支援教育専修必修	附属特別支援学校 県立支援学校
	特別支援教育専修実習	4	特別支援教育専修必修	大 学 附属特別支援学校
	副 免 教 育 実 習	4	小学校・中学校教育専修必修	附 属 学 校
	教員インターンシップ	4	選 択	協 力 校
変化する	主免教育実習事後指導	3	全 専 修 必 修	大 学
	主 免 教 育 実 習	3	全 専 修 必 修	附 属 学 校
	主免教育実習事前指導	3	全 専 修 必 修	大 学
	附属校園観察実習	3	全 専 修 必 修	附 属 学 校
気づく 感じる	気 づ く 実 習	2	オ ブ シ ョ ン	協 力 校
	ふ れ あ い 実 習	1	全 専 修 必 修	協力校(幼稚園) 附 属 学 校
	保 育 所 実 習 I	2	幼 児 教 育 専 修 必 修	保 育 所
	保 育 所 実 習 II	4	幼 児 教 育 専 修 必 修	保 育 所
	施 設 実 習	2	幼 児 教 育 専 修 必 修	施 設
	介 護 等 体 験	2	小学校・中学校教育専修 及び特別支援教育専修	社会福祉施設等 附属特別支援学校

○ 教育実習の支援

- ・教員としての実践的指導力の育成及び教育現場における今日的な課題に対応する実践的研究の推進に資することを目的に、「実地教育部門」「教職大学院(教科実践高度化系)実習部門」「教職大学院(教職実践高度化系)実習部門」及び「N-CBT部門」から成る教育実習総合支援センターを置いている。附属学校で行われる教育実習期間は、毎日、教育実習総合支援センターアドバイザー(元学校教員)が附属学校にて指導助言を行っており、学生の問題に現場で対応すると共に、教育実習総合支援センター部門主任等(大学教員)による巡回指導を行っている。

※「N-CBT」とは教育実習参加自己診査システム(New Computer Based Testing)のこと

※「N-CBT」は、実習の事前指導として行っている。「教員としての基礎力」「教育的人間力」「協働性」「生徒指導力」「保育・授業実践力」の5項目からの出題に回答することで見える化された自身の力を参考にして、自己課題や参加意欲、自信を持たせたいと、実習に参加させる。

○ 教育ボランティア活動

- ・教育委員会から案内のある「学習支援・部活動・特別支援等のボランティア」に、希望学生が応募し、参加している。ボランティア活動における単位認定は行っていない。

紙幅の都合上、本稿におきましては一部の紹介となりましたが、頂いたご教示の全容につきましては、関係者間で共有するとともに検討資料等として活用させていただき、本学学生の教員就職率のさらなる向上を期してまいりたいと願います。

ご多用の中をご丁寧な回答をお寄せいただいた鳴門教育大学関係各位に感謝申し上げ、本稿での報告といたします。

なお、ご教示にあたり各種資料および次の資料を参考にご説明いただきましたこと、申し添えます。

「鳴門教育大学 大学院ガイドブック 2021」 <https://www.naruto-u.ac.jp/e-ouen/01/009.html>

「鳴門教育大学 学部案内 2021」 <https://www.naruto-u.ac.jp/e-ouen/02/010.html>

■ 今後のセンター関連の予定

- ・ 2月3日（水） 地域学習アシスト事業 アシスト活動及びカンファレンス
- ・ 2月8日（月） 教師力養成講座（山梨大学教師塾プログラム）
- ・ 2月10日（水） 第10回センター会議
- ・ 2月10日（水） 地域学習アシスト事業 アシスト活動及びカンファレンス
- ・ 2月15日（月） 教員採用予定者等を対象とした「初任者元気アップ講座」
- ・ 2月15日（月） 第37回教育フォーラム
「コロナ禍における子ども支援 — 教育相談として何ができるのか」
<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2021/01/e-forum-37.pdf>
- ・ 2月17日（水） 地域学習アシスト事業 アシスト活動及びカンファレンス
- ・ 2月18日（木） 令和2年度第4回山梨県総合教育センターとの連携・教育研究会
（兼 令和2年度山梨県総合教育センター研究大会）
- ・ 2月24日（水） 地域学習アシスト事業 カンファレンス全体会（総括）
- ・ 3月4日（木） 第98回国立大学教育実践研究関連センター協議会総会
- ・ 3月5日（金） 令和2年度第5回山梨県総合教育センターとの連携・教育研究会
- ・ 3月10日（水） 第11回センター会議

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/> で見ることができます。